

小児救急対応ガイド

こちらの面の応急手当は
窒息、やけど、出血時のお伝えします。
↓そのほかのお役立ち情報↓

急な病気やけがで
救急車を呼ぶか迷つたら…



かながわ救急相談センター
(救急医療相談・医療機関案内) 年中無休
24時間対応

シャープ
7 1 1 9
または直通ダイヤル

045-232-7119
045-523-7119

※(聴覚障害者専用)医療機関案内のみ
FAX 045-242-3808

医療の視点 横浜市医療局
YOKOHAMA 3版 (2025年5月改定)

窒息の対応

のどに物が詰まった！唇が紫色！呼吸ができない！
呼吸をしていないときや顔色がおかしい場合は救急車を呼びましょう

背部叩打法

- 片方の腕に乳児をうつぶせに乗せます。
- 手で乳児のあごをしっかりと持ち、頭部が低くなるような姿勢にします。
- もう一方の手のひらの付け根で、**背部を力強く数回連続してたたきます。**



胸部突き上げ法

- 片方の腕に乳児の背中を乗せ、手のひら全体で乳児の後頭部をしっかりと支えます。
- 頭部が低くなるよう仰向けにし、もう一方の手の指2本で、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とする**胸骨の下半分を、力強く数回連続して圧迫します。**



出血時の対応

☆大量に出血している場合や出血が止まらない場合には、**救急車を呼びましょう。**

- 清潔なガーゼやハンカチ、タオルなどを重ねてきず口に当て、その上から出血部位を指先や手のひらで強く圧迫します。
- 大きな血管からの出血の場合で、片手で圧迫しても止血しないときは、両手で体重を乗せながら圧迫します。



やけどの対応

☆やけどをしたら、流水ですぐに冷やしましょう。

☆やけどの範囲が広い場合や顔面や陰部のやけど、または皮膚が焦げていたり白くなつて痛みを感じないような深いやけどの場合には、すぐに救急車を呼びましょう。

- 氷や冷却パックで冷やす必要はありません。
- 広い範囲にやけどをした場合全身の体温が下がるほど冷却は避けましょう。
- 水ぶくれ(水泡)は破らないようにしましょう。



実演動画

窒息の対応方法等が
わかりやすい動画を
紹介します。

視聴はこちらから→



東京消防庁youtubeチャンネル
横浜市のHPではありません

小児の応急手当再生リスト

1. 乳児：胸部突き上げ法
2. 乳児：背部叩打法
3. 窒息の応急手当
4. 成人・小児：背部叩打法
5. 成人・小児：腹部突き上げ法
6. 心配蘇生
7. 小児の心配蘇生 (AED含む)
8. 人工呼吸

こちらの面の応急手当は
熱性けいれん、熱中症の方法をお伝えします。

↓そのほかのお役立ち情報↓

急な病気やけがで
救急車を呼ぶか迷ったら…



かながわ救急相談センター
(救急医療相談・医療機関案内) 年中無休
24時間対応

シャープ # 7 1 1 9
または直通ダイヤル

045-232-7119
045-523-7119

※ダイヤル回線・IP電話からは、
045から始まる番号をご利用ください。
※(聴覚障害者専用) 医療機関案内のみ
FAX 045-242-3808

夜間や休日などに
病院を受診するかどうか、
判断に役立つ情報はこちら

ONLINE QQ
子どもの救急



公益社団法人日本小児科学会

休日診療所・夜間急病センター

施設一覧



横浜市HP
医療局

○< 医療の視点 YOKOHAMA 横浜市医療局

熱性けいれんの対応

熱性けいれんとは

- ・発熱で起こるけいれんで
1～4歳くらいに多く
見られます。
- ・通常は数分で自然とおさまりますので、慌てずに落ち着いて対応しましょう。



熱性けいれんの注意点

☆大声で名前を呼ばない！

☆身体をゆすらない！

刺激となり、けいれんが長引く場合があります。

☆口の中に物を入れない！

熱性けいれんで舌を噛むことはほとんどありません。
噛む力はかなり強いため物や指を入れることは危険です。

熱中症の対応

☆頭痛、吐き気、嘔吐、注意力の散漫などがある場合には、
病院を受診しましょう。

☆意味不明な言動があるなど意識が朦朧としていたり、
体温が極端に高い場合は、**すぐに救急車を呼びましょう。**

①涼しい環境に退避させる。

風通しのよい日陰や冷房が効いている室内などが適しています。

②衣服を脱がせ、体を冷やす。

- ・衣服を脱がせて皮膚を露出し、あまり汗をかいていないようであれば、皮膚に水(冷たい水よりぬるい水が効果的)をかけて濡らしながらうちわなどで風を当てます。
- ・氷のうや冷却パックで首、脇の下、太ももの付け根などを冷やしましょう。頬、手のひら、足の裏でも効果的です。

☆水分と塩分、糖分の補給も重要！

熱性けいれんの対応

けいれんが5分以上続くとき、意識が戻らないときは、
救急車を呼びましょう。

① 慌てず、安全で平らな場所に
仰向けに寝かせましょう。

☆吐きそうな場合は、
吐いたものがのどに
詰まらないように
顔と体を横に向かせましょう。

③ けいれんの状態を
確認しましょう。



☆腕や足が
ガクガクしているのか、
ギューッとしているか
など**身体の動きに注意！**

② けいれんが始まった時間
を確認しましょう。
衣類をゆるめて熱を測り
ましょう。

